

⑮【2か年度(2年目)】デジタル予約アプリを活用したモビリティ・ハブ実証実験(熊本県八代市)

1. 実験概要、留意すべき項目

- ・ AIオンデマンドバス、タクシー、レンタサイクル等多様な交通手段を接続し、シームレスに利用可能とするモビリティ・ハブを検証する。
- ・ モビリティ・ハブの整備は先進性もあり、MaaSとの組み合わせにおいて有効性が期待され、先行事例となる可能性が高く、推奨すべき取り組みとなること。

2. 実験内容、実験結果

①デジタル予約アプリでつながるモビリティ・ハブの整備

⇒JR新八代駅付近で利用できる8つのモビリティサービス(新幹線、在来線、高速バス、路線バス、乗用タクシー、AIオンデマンドバス、電動キックボード、レンタサイクル)全てに対応したデジタル予約アプリを開発した。

②JR新八代駅を拠点とするAIオンデマンドバスの運行

⇒JR新八代駅からくまモンポート八代を結ぶ新たなモビリティサービスとして、AIオンデマンドバス「くまモンポートライナー」を運行し、観光地までの二次交通の確保及び交通空白の解消を図った。



デジタル予約アプリメイン画面



AIオンデマンドバスの乗車状況

3. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- ・ 本実験では、市内に点在するモビリティサービスの集約に加え、新たなモビリティサービスの導入を行った。効果的なモビリティサービスが少なかったくまモンポート八代までのアクセス改善、交通空白地の解消に効果を示したと考える。
- ・ アプリの開発から、新たなモビリティサービスの運行までを地元の交通事業者が実施したという点は他地域へのヒントとなり得ると考える。
- ・ 実験開始当初には想定していなかった団体との連携、協力が生まれた点についても、同様の事例に取り組む際の参考として欲しい。

⑮【2か年度(2年目)】デジタル予約アプリを活用したモビリティ・ハブ実証実験(熊本県八代市)

4. 意見と対応

有識者等からの意見	意見への対応
鉄道の時間帯に合わせて、標準的な時刻設定をして乗降させる仕組みであれば、帰りも安心して利用できるのではないか。	AIオンデマンドバスの運行については、博多方面の新幹線利用者をメインターゲットとし、それに合わせた運行時間帯を設定した。
周知の内容として、オンデマンドバスの運行のみを押し出しても伝わらないため、観光コンテンツと連携した内容としてもらいたい。	周知については、市内・市外向けにそれぞれチラシ・ポスターを作成したほか、インフルエンサーを活用したPR動画を制作し、市内の観光地と併せて本実証実験をPRした。また、デジタル予約アプリでは市内の観光情報との連携に加え、九州MaaSとの連携を図った。
効果検証の部分でアプリの利用者数を挙げてあるが、くまモンポート施設全体の利用者数を把握した上で検証されるとより効果的ではないか。	今回の実証実験では、来園者数と、アプリの利用者数(アクセス数)とを関連付けるのが難しかった。
くまモンポートでレンタサイクルやキックボードを利用してもらうのはいかがか。	レンタサイクルについては、9月までクルーズ船の寄港に合わせて、くまモンポート八代での貸し出しを行ったが利用はなく、10月にお祭りでんでん館にて貸し出しを行い20件利用があった。
AIを使った実験については、プレーヤーが誰になるか決まっていないパターンが多く、実装率が低い状況にある。実装に向けた役割分担や費用負担についても検討されたい。	AIオンデマンドバスについては、配車システムの構築をはじめ、運行時間帯や便数など車両・人員の配置に関しても民間事業者による事業化を見据えた運行を検討・実施した。

5. 本格実施に向けた課題と対応方針

本格実施に向けた課題	課題への対応方針
デジタル予約アプリの利活用	デジタル予約アプリの機能を改修し、現状に合わせた活用を行う。
モビリティ・ハブの機能強化	アプリの検索・予約機能の拡充や新たなモビリティサービスの追加等について検討する。
バスによる運行では、AIの効果を十分発揮できず、採算ベースの事業化を考えると、現状では採算性が低く、事業者の運営体制上も安定したサービスの供給が難しい	AIオンデマンドバスではなく、JR新八代駅を経由する高速バス「すーぱーばんぺいゆ号」の一部の便をくまモンポート八代まで延伸し、JR新八代駅からくまモンポート八代までの移動手段を確保する。

6. 今後のスケジュール

- 令和7年度～
- ・ アプリの機能改修(交通事業者)
 - ・ アウトドアツーリズムの推進(自治体)
 - ・ 高速バス「すーぱーばんぺいゆ号」によるJR新八代駅とくまモンポート八代間の移動手段の確保(交通事業者、自治体)